

草筆木筆で描く不思議のらんたち

草画帖

59



号



蓼号です、

表紙はオオイヌタデ。

号名はボントクタデ。

他にイヌタデ、ハナタデ、

サクラタデ、白花も二種。

左はヤナギタデ。

行
秋
の
杖
つ
く
人
と
な
り
に
け
り



オオイヌタデ白花筆。

アカマンマ、シロマンマ…ままごのような暮しも。



イヌタデ筆

いのちなり露草の瑠璃蓼の紅 石田波郷



夢食う人



ヤナギタデ筆。

夢食う人、泡食う人、霞食う人……いろいろに。



ボントクタデ筆。

貧しさの果もなかりし蓼の花 飯田蛇笏

月

——十月二十二日 中也を偲ぶ

月は茗荷を食いすぎたのか。

鐘楼にブラ下がった鐘は鳴りもしない。

こんな夜だから、

オリオンの流星も飛ばず、

獺は木鼻をそつとぬけだして、

未明の町を彷徨うだろう。

こんな世だから、

悪夢を見る人は増えているだろう。

漂泊者

—— 十一月一日 朔太郎を偲ぶ

日は低く路地の彼方。

憂いは棕櫚の下をさ迷う。

行方はあるか？

魂の。

漂泊の。

風に訊こうにも、

風はどこかへ消えて、

たそがれる路地を、

雪虫一匹淡く飛んでいる。



ハナタデ筆。

目を瞑れば…夢念夢想、雑念雑想…そのままに…



サクラタデ筆。

蓼科（たてしな）の蓼科（タデカ）の草花よ。



ゆ
し
え
ん



シロバナサクラタデ筆。

風の行方、草の絮の行方、思いの行方、別れたる人の行方。



シロバナサクラタデ筆。
なにかもういっぺん考えてみたいことが…

凡



ボントクタデ筆。

凡花よし、凡草よし、凡樹よし、凡山よし、凡日よし。

草話

道を歩けばイヌタデの一处が赤く美しい。赤まんまと呼ぶ方が親しみを覚えるが、さてままごとの記憶はというとおぼろ。赤飯を振る舞ってくれた女の子の顔も定かではない。それなのに、おもちゃのかまどや鍋や釜、俎板や包丁のイメージは今でも浮かぶ。

*

犀川の河原で石拾いの折に知ったのが鮮やかなオオケタデ、それと葉の班ですぐに分かるボントクタデ。「蓼食う虫も好き好き」——のヤナギタデは本タデとも真タデとも言う。普段の散歩コースにはなく、この秋長倉池付近の田で遇った。確認のために妻が葉を噛んで、相当辛い目を味わった。

*

タデの種類は多い。〇〇タデと名の付く以外にも、アイ、ミゾソバ、ミズヒキ、イタドリもそうである。

水かれがれ蓼^か歟あらぬ歟蕎麦^か歟否歟 蕪村

大原の野を一人吟行していた蕪村の目に一叢の花が映った。それがタデの花か、ソバの花か。

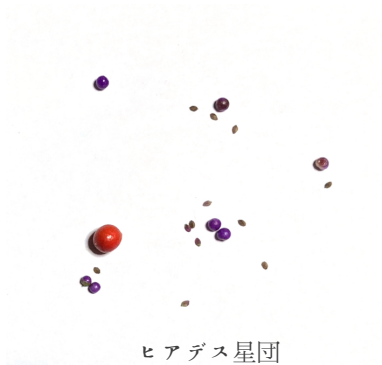
*

ある詩人（中野重治）はこんなふうに言っている。

おまえは歌うな

おまえは赤ままだの花やとんぼの羽根を歌うな

ある時代の詩人の決意は尊重するとして、（人類中心の）この時代、同じ星に生きる仲間の赤まんまやとんぼを、ぼくは歌っていこうと思う。



ヒアデス星団

ナンテン、コムラサキ、アカマンマの実

俳句 白山鳥翁 / 絵 艸々子 / 詩 泉井小太郎

草画帖 第59号 2023年11月15日 泉井小太郎編集 六角文庫発行

〒675-2312 兵庫県加西市北条町北条1039 Tel 0790-42-6008